

With コロナ時代の新しいまちづくりを考える 地域円卓会議

集まれない時代に、まちづくりで何が起きたのか? 失ったものと得たもの

実施報告書

【1日目】論点提供・セッション1

収録日時: 2020年10月13日(火)19:00-20:30

収録場所: 公益財団法人みらいファンド沖縄

開催方法: YouTube 配信

【2日目】サブセッション・セッション2

開催日時: 2020年10月27日(火)19:00-20:30

開催場所: なは市民活動支援センター 会議室1

開催方法: なは市民活動支援センターでのリアル開催とオンライン開催 (Zoom)

主 催: なは市民協議会

協 力: 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成 公益財団法人みらいファンド沖縄 NPO 法人まちなか研究所わくわく

【報告】Withコロナ時代の新しいまちづくりを考える地域円卓会議



【1日目】論点提供・セッション1

■収録日時:2020年10月13日(火)19:00-20:30

■収録場所:公益財団法人みらいファンド沖縄

■プログラム

1. オリエンテーション

2. 論点提供

3. セッション1

4. 板書ふりかえり、まとめ

■開催方法:YouTube 配信 (https://youtube.com/playlist?list=PLCpGstaOzIBAC84nQ0gGULnzQ-2hyqQqF)

■動画再生回数 (2021/2/17 時点):191 回 (1/2)、171 回 (2/2)

■着席者数:8名(論点提供者、司会、記録者含む)

論点提供 饒波 正博 氏(なは市民協議会 代表)

集まれない時代に、まちづくりで何が起きたのか?失ったものと得たもの

コロナ禍によって集まりにくくなったことで、まちづくり活動に何が起こったのか。まちづくりから目指していたことへの本質に立ち返り、コロナ禍で得たもの、失ったものを話し合います。そして、Withコロナ時代の新しいまちづくりについてみんなで考えていきます。

センターメンバー(1日目)



饒波 正博 なは市民協議会 代表



宮里 仁 那覇市 市民文化部 まちづくり協働 推進課 課長



平敷 雅 那覇国際高校 3年生



大城 喜江子 一般社団法人 まち づくりうらそえ 代表



早瀬 京鋳 オリオンビール 株式会社 代表取締 役社長兼 CEO



高山 義浩 沖縄県立中部病院 感染症内科・地域 ケア科 副部長

【2日目】サブセッション・セッション2



- ■開催日時:2020年10月27日(火)19:00-20:30 ■開催場所:なは市民活動支援センター 会議室1
- ■プログラム
 - 1. オリエンテーション
 - 2. 1日目ふりかえり
 - 3. サブセッション
 - 4. セッション1
 - 5. 板書ふりかえり、まとめ
- ■開催方法:なは市民活動支援センターでのリアル開催とオンライン開催 (Zoom)
- ■着席者数:5名(論点提供者、司会、記録者含む)
- ■参加者数:28 名(会場 18 名、Zoom10 名)(市民活動団体、行政、福祉・医療機関等)

センターメンバー(2日目)



饒波 正博 なは市民協議会 代表



中川 廣江 琉球新報通信員·那覇市協働大使



井上 講四 元琉球大学教育学部 教授

▶ 今後のアプローチの方向性(提案)

- 1) まずはコロナ禍で失ったコミュニケーションの評価を行いたい。例えば公民館の閉鎖等をサンプルに、ここで行われていたコミュニケーションがどのようなもので、それが地域内の各主体の関係性維持にどういう役割をしていたのかを評価し、コロナ禍でこのようなコミュニケーション手段を失ったことによる影響をはかり、新しい手段の検討を行うべき。
- 2) コロナ禍において発生してしまった課題に対して、市民から起こった事業・チャレンジを記録し、同時にできなかったことを振り返り総括したい。振り返る視点として、市民はどうやって課題を知り、原因を特定し、その解決にどうアプローチしたのかといったプロセスと結果を評価したい。
- 3) 市民発のアクションをより良き結果に結びつけるためには、なは市民協議会のようなプロボノ団体の伴走が不可欠である。日常のコミュニケーションやファシリテーションのスキルによって課題を特定し、課題解決に必要な企画をまとめ、地域資源の割り振りを行い、必要な場合は行政側へのつなぎ(制度設計や緩和等)を促す。この一連のプロセスを体系化し with コロナ時代の市民協働の仕組みを作っていこう。

■参加者によるサブセッション

集まれない時代に、まちづくりで何が起きたのか?失ったものと得たもの

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

① <得たもの>

- ・車いす使用の方々とお会いするのはハードルが高かった。コロナ禍では、オンラインで気楽に話すオンラインカフェを開いた
- ・交流が深まった。今まで見えてこなかった ことが明らかになった。
- ・テレワークで働く可能性が見えてきて、チャンスが見えている。
- ・ズームの可能性は凄い。行かなくてすむ。 色々な人が繋がる可能性が出ている。
- ・オンラインを通して全国の仲間と繋がっている
- ・オンラインで、名古屋にいてもつながれる。
- ・空手のお稽古もできる。
- ・今日も、石垣島、名古屋、相模原でつながれた。

<失ったもの>

- 飲み会が出来ないのがつらい!
- ・伝統と歴史ってなんだったのか。
- ・チーム活動が出来ない。
- ・沖縄に行っても気軽に皆にあえない。状況がわからない。
- ② やっていること) 笑いヨガ(全国、みんなで笑う) 身体ほぐしなどを Zoom で行っている。70代で Zoom を始めた。
 - ・商店街いかに観光客に頼っていたか良く 分かった。
 - 「いかに地元の人にも来てもらうまちづく りにするか」考えないといけない。コロナ は良い機会になっている。
 - ・オリオンビールの会社や高校生の取組が すごいと思った。
 - ・自然体験の機会が減った。

③ With コロナでのまちづくり

- ・今までのまちづくりの「当たり前は崩れた」 (集まれない、機能しない)セーフティ機 能
- ・当事者団体は動いた(シングルマザー、ネパール)→直接支援に動いていた(弁当配布)具体的に困っている人をキャッチ
- ・自治会・まち協は困った人とつながっていない→定例会・清掃どうする?の困り感→ 民生員、自治会でも気づかない→元々の人 にはアプローチしていた
- ・若狭公民館→学校へ
- ・休校で学校はキャッチできていない
- ・普段からつながりない所は気づかない
- ・校区まち協 気づいてる? 動けなかったよね。その理由。担っている 人は高齢者。独居高齢者は対象。シングル マザー、外国人は対象外。
- ・困っている人は確実にいる。
- 1 どうやって気づくか?→普段からつながっていない
- 2気づいてからどうする?
- ・学校はつながってる。学校も短期休校→感 染拡大を防ぐ→学童の問題。ヨギ。超密。 だんだん密解消。
- ・エリア→カルテ→「データから見える課題 (これ大事)」活動している団体を呼んで 勉強会。フードドライブ
- ・学童→消毒作業。朝からの体制構築(夏休 み)体制
- ・休校、休館の判断
- ・民生委員、まち協の集まりに使えないのは 痛い
- サークルは止めてもいいけど
- ・中間支援団体は認めていい。

- ・最後の方では使わせていた。
- ④ <身近に起きた体験>
 - ・自治会行事がなくなった
 - ・チームまちなかはズームで

引きこもった高齢者支援が必要な人に手が いってない

格差がうまれた

スマホ講座

<新しい取組み>

これまでの取組みを新しい気持ちで!

- ⑤・むだが削がれている→集まることでやった気になっていた。
 - ・公共施設を使えない→利用者の情報が入 らなくなった
 - ・前例がないものをつくる→行政が弱い部 分
 - ・市民の活力を活かす
 - ・ぜい弱な部分が表面化←アプローチするためにアウトリーチ
 - ・民間の力 フードバンクと行政の連携(民間)
 - ロンドンのフードバンクの例。
 - ・失業→失業保険←数か月間フードバンク 利用連携(民間と行政が)
- ⑥ コロナの体験・新しいとりくみ (まちづくり)

- ・勤務形態の変化 (アナログ化)。外に出れない
- ・東京での隔離生活→両親脳梗塞、折り紙ボ ランティア 5近所づきあい行けないが良くなった→普
- ・行事が失われている→準備ができなくなっている
- ・オンライン Zoom 会議→熱意が伝わらない
- ・急速にオンライン化が進む→コンサート もよろこんでいる→良かった点 旅費をかけない。どんどん発信されている。全国から。リアルじゃないけどリアル
- ・恩返し、恩送り⇒弁当の配布、食料支援⇒ 次につながる、孤立、助け合い
- 関係性の貯金→既存団体がより強まる
- ⑦ ○大学で授業がリモート(困りごと)
 - 友人ができない

段つきあい

- ・孤独の人が多い
- ・老人のひとりぐらしも一緒
- ○工夫(知恵の活用)
- ・夕食会を半々で時間をずらす
- ・より感染しない食器
- ・小分けで配布
- ・代理で買物

With コロナ時代の新しいまちづくりを考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

◆概要(2日目)

•開催日時:2020年10月27日(火)19:00-20:30

・開催場所:なは市民活動支援センター会議室1

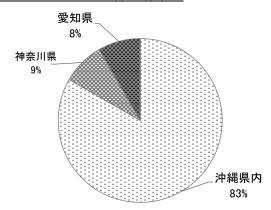
・開催方法:なは市民活動支援センターでのリア

ル開催とオンライン開催 (Zoom)

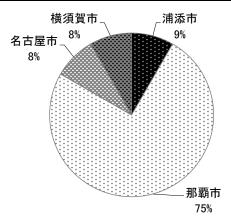
・着席者:5名(論点提供者、司会、記録者含む)

・参加者: 28 名 (アンケート回収 12 名、回収率 43%)

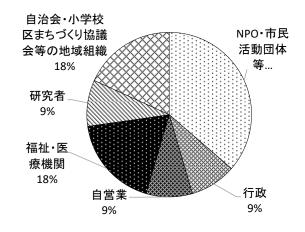
1. どちらから? (都道府県)



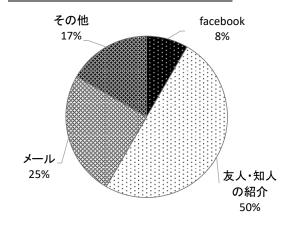
2. どちらから? (沖縄県内市町村内訳)



3. 所属



4. 円卓会議はどのように知ったか



5. 満足度

平均: 4.0 (5点中)

5. 満足	4. 概ね 満足	3. 普通	2. あまり 満足して ない	1. 不満足
4名	6名	1名	0名	1名

6. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・ コロナ禍の活動やその思いを聞いて勇気を もらった。社会教育の意義も共有できてと てもよかった。
- ・ ヒントワードがちりばめられていて、新し いチャレンジもできた。
- 主題がタイムリーだし、それに対するコメンター選びも適切
- ・ 久しぶりに対面で円卓会議に参加できて嬉しく思いました。

新しい活動が各地で生まれていること、戦略的なwithコロナ(前に進める)というテーマをいただき、次につながるものになった。

(4. 概ね満足)

・ コロナ禍で失ったもの、新たに可能性が開けたものという切り分けは、大事ですね。 市会の方が言われた、研究や相談機能は、 格段に弱くなりました。

高齢者や障がい者にとっては、行動が制限

されるなかでは、条件の平均化のような効果もあったというメリットもありますね。

- 私とすると、最後の整理は、話した内容ではなく、失ったもの、開けたものといったように、テーマにあわせて、整理してもらった方が、うれしかったですが、でも、参考になりました。ありがとうございました。
- ・ コロナ禍の子どもの居場所、高齢者の居場 所の状況が少なからずも確認ができまし た。
- 仕事をしながらのリスナー参加だったが、 予想よりもいい感じで聞くことができた。
- タイムリーで今後の可能性と課題をあぶりだすとても良い場でした。ありがとうございました。概ねというのは、オンラインのグループセッションの場、ここで何を話し合うのかよくわからない、Google スライドがどこにあるのか~で、ほぼ 10 分を費やしたところを差し引きました。結果、お互いの現状を話すにとどまりはしましたが、その現状を知ることが出来ただけでも、可能性が見いだせてよかったです。このグループセッションでは、全員がオンラインで活動を広げている人たちでした。長らく IT 教育に携わってきましたが、身近な IT 活用のとても良い事例を見ました。
- コロナ禍での課題や取り組みを知ることが 出来た。

特に若桜公民館の方のお話が面白かった。

コロナ禍の最中でもコミュニティー活動は 実践出来ることを確認しました。

(3. 普通)

会場参加でしたが、画面の共有がよく見えなかった。

先生のフローチャートをよく見たかった~ Zoom 参加ならよく見えたのかもしれません ね。テレビ画面だけでなく、スクリーンに出 すことができたら見えたかもしれません。

(1. 不満足)

・ 学識経験者が「ご意見を頂戴」するという 方法で参加するのはあまりにも発想が貧 困。しかも出てきた意見が社会教育の必要 性という、5年後ならまだしも現在進行形 のコロナ禍のまちづくりには全く役立たな い意見で失望した。もっと新しいことを実 施している人、困っている現場の人の話が 必要だった。

7. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ コロナは社会構造を再構築するチャンス、 ルールは新しく作る、戦略的な with コロ ナ、社会教育によるひとづくり
- ・ 失われたもの、得たものを一度、きちんと 体系化して整理する必要性を感じました。
- ・ トレンド (高山 Dr、早瀬社長、高校生など) にあった着席者が良かった
- ・ 「本来集うことが我々の唯一の武器」「目的 別に活動をされている方々はいる」「前例が ないことを楽しむ」
- ・ オリオンビール早瀬社長の事実を見る、前 列踏襲しない、前列を捨てていく等
- ・ 若者の活躍、既存のまちづくり主体、公民 館一斉休館の検証、コロナであらわになっ た課題を今後追及できるか?忘れてしまう のか?
- ・ 議論にもあった件で実感したのは、移動しつつ仕事を複数こなしながら、しかも夕食も取りながら耳を傾け、ディスカッション内容を明確に理解できた。bluetoothイヤホンによるハンズフリーで、パソコンから離れて作業していても会議参加できるのは、まさにアンダーコロナによってもたらされたリモート技術とツールのたまものだと感じた。
- テーマを持って活動している組織は動き続けているという話に納得感があった。なぜ、この活動が必要か問われていくと思う

- やはり、熱い沖縄県民はまわりに困りごと があると居ても立っても居られず、すぐ動 くということ (笑) 感染予防をした上での 活動のシステムづくりの重要性を感じまし た。また、産業界ではもちろんですが、ま ちづくりでも IT を活用して活動を広げてい る人もいて、このような時代の中での可能 性の広がりが認識できました。同時に、見 守りが必要な、操作に不慣れな高齢者や環 境を整えることが難しい方々の状況を知る にはどうしたらいいのかという課題、直接 顔を見るに勝るものは有りませんが、ここ しばらくの間は、貸し出しや、簡単に操作 できるアプリケーション開発等に官民で取 組めれば良いですね。外に出られなくて足 腰が弱ったり、うつっぽくなったりという ことも話の中にありましたが、オンライン
- 上でも人が繋がれば、多少解消できる可能 性も出てきます。
- ・ IT 化の阻害要因は、人間の感情であること が多いですが、コロナ禍でその壁は良い意 味で大分崩れました。
- さらには、潤さんの人づくりは地域づくり、大城喜江子さんの今できることをやるという言葉は、う~ん!でした。ありがとうございました。
- ・ 印象に残ったことは行政担当者の判断が人 によって異なる、これからはそれを逆手に とって?人に任せては、それには胆力が要 るという話
- ・ コロナで得たことで出た意見の中で障害を 持った方の繋がりや活動の広がりの話
- 特にない。

<動画記録(1日目)>



·公開日: 2020年10月16日

·再生回数:191回(2/17時点)

• URL: https://youtu.be/iVUQjvP-3jg



·公開日: 2020年10月16日

·再生回数:171回(2/17時点)

• URL: https://youtu.be/qgXhwaJEm34

<動画記録(2日目)>



•公開日:2021年2月5日

· 再生回数:10回(2/17時点)

• URL: https://youtu.be/t3vp0yu5pFs

〈ダイジェスト動画〉



·公開日:2021年2月5日

·再生回数:16回(2/17時点)

• URL: https://youtu.be/LyiuVbHyCkc

<会場の様子(2日目)>

















<板書記録(1日目)>

With コロナ時代の新しいますづくりを考える

地域門島會議 地域。即作

188

2020 10 13 (火) 19:00~

2日日 10月27日(火)

テーマ 集まれない時代に、まちづくりで何が起きたのか?

88 回目 共有·共感打場

失ったものと得たもの

主催 なは市民協議会

協力 みらいフェンド沖縄、まちなか研究所わくわく

(京は市民協議会代表)

宮里仁
(那覇市ま55()協働)
推進課)

(司会)

平良斗星
(みかフェンドラ神港)

「別かいような経」

「別かいような経」

なは市民協議会 なはまち講座からのメンバー まちづくソー・プロボノ 課題もなより、解決のための役おし ひろってきて。 集まれる。中生かついり

でうな、ていくのか

- 時的でなく (記録) 宮道キー (おなか研究所かられく)

大城喜江子

○ 高山義浩 (沖縄県立中部病院感染症內科 地域か3科制部長)

³/₂₉ まかいシャポックム → コロナでなくなった 定的食りなな、

さうづくりがなくなった

でもっ大変なとき、なくなって

2020.10.13 🔞 1

(中民がつてうことの意味とは 権力に対して「つごう」ことはゆういつの武器 診しもうことは カ 知たちの力を失っていいのか?

@また、本当にならなったのか?

のでもろだけ合う智力をする

●でうやったら 会えるか チャレンジ

いきなり高飲着まじょてやるのは

チャレンジをくりからしていく.

失っていることに気づけていないかもしれない

・かなり長くかかる

● 数年かかるかもしれない

● どうくらしをとりもで すのかり

SP 高山義浩女〈ビデオインタビュー〉

高齢者の生活わげき お年寄くらん

● 99 戦後のカンファレンスをWistAnt, でった 在宅医療・地域連接 ●この事年ひらけて

ひらめき、 失感 カンライン おもづら

できるだけ人は戻るがきて考えてる

●コロナで 浮んで とりこんでいく

●得たものもある ン

●学上権到・不登校の子の権制保障

努力してはじめて、コロナのをでより強い、やもしい社会でなる

松山の村はたちかけてかいていないかいないないか

せい弱なき2をもまかかです。 まよりたですれた おろく (多国) 35-4

● 53、割分も直視して チャレンジしなみら誘縮を 認践しなおし、チモラっていく

2020.10.13 🚳 2

からしべ 長着 努力しないと ただの経験 言葉にい行動へ、価値と

宫里仁弘

(那覇市まなが(り協働推進課)

自然相称 交换 生からりを接

緊急~宣言

感染抗大飞 とう 活動力のジシュク Patrisary. 公共施設が使えない

たは城北勢・経済活動できなく/

見守りできなくなった · 民生委員も

会う努力 ひざまじえること大事 地域人顏於は信賴則你也 それができないら 地域からの声を集約していく・享かでる

困っているるなを支援する治動がみえて、 2020.10.13 13 3 ひろがった 大城喜江子也 まちづくりうらそえ代表 潮添布立森の子児童センター 館長)

児童館

親子が 元気か

子でもたすりへ出れない 学習支校、食事支校 お舟ちわたした 田子生治支校施設 感染状大防止的左め外出なで制限.

こでもの言い、行動でみるこれたである ※貝するキノウ 下がった かえなしな,たこでも

雨るある バランスとっていく チャレンジー共主でる



早瀬京鋳 が (カリカンピール株式会社取締役社長兼CEO)

4つの事業 トルールを割り

(4~9日休菜

4~5月 8割減 ゴルフ場 なまで おうまかった スーパーは好調 (象飲み) 地域でとに全く変った

事実とみる 十過度に悲観・楽観しない

ルールもつくる→前倒とうしからしない

週1出事 いっきに中なてできる 今だから何でもやってよい アイデる出てくる.

計縄のムードメーカー tra ビ3フィス 苦汁の決断 ルールがないことの 楽しせ

前的七

526

77700

集まれない一つオンライソ 週1トレーニング

● 今までやったことない コミュニケーソョン していまえずやろう してこからなが、

2020.10.13 6 4

平敷雅机

(那霸国際高校3年生·VONS代表)

阴独制帰国 ● 2019.7~ 3×りカ留学. 2個は 自主 かくり

●給食なして苦しんでいる子いること肉いて、気づいて (まかれできること

みっこばあばのる所 マパール帽子生へ 弁当(ば、ていた

●フードドネーションをや、73よう VONS E 寸5上げ

得たもの大きへ

コロナルよ、マイを問題れてびなんでいてつ 今の現状, は題

侵田的題

価値色かれた

児童館 防災訓練 ロヤメハモ・アンケートロヤアう でもなったけでなら、でもることも

よったいかにみつけていくか、



- 新しい活動が生まれている
- 何もないように見えたが、それぞれ 動きがあることわかった
- ●なくなった活動は前例踏襲の切だった (定例会なび)
- せ,かく会っているのに、活動に展開できていなかったかも

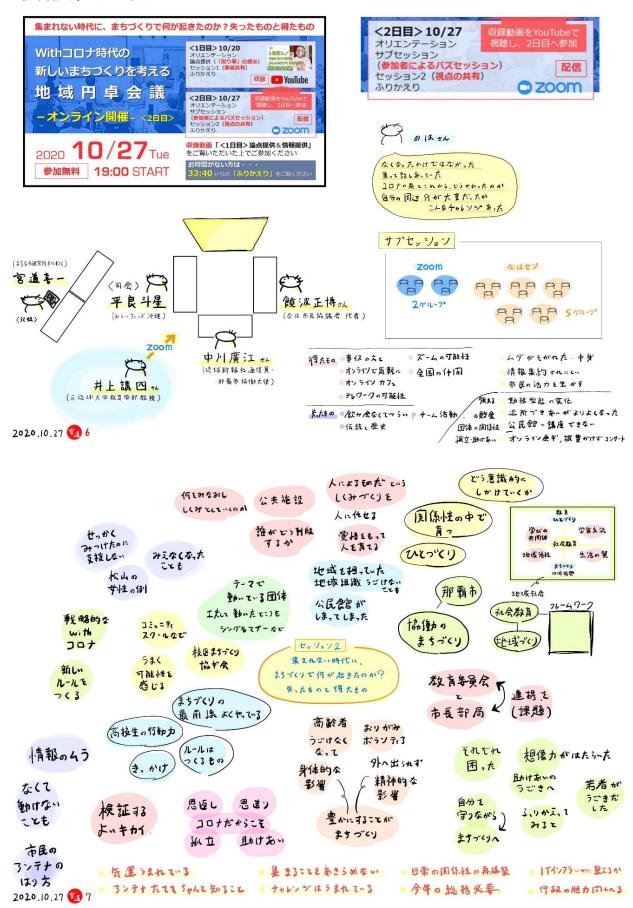
次回几向出了

ますでおこっていたことの再確認 自分のコロナ体験から何を学び、チャレンジへっなげるのか

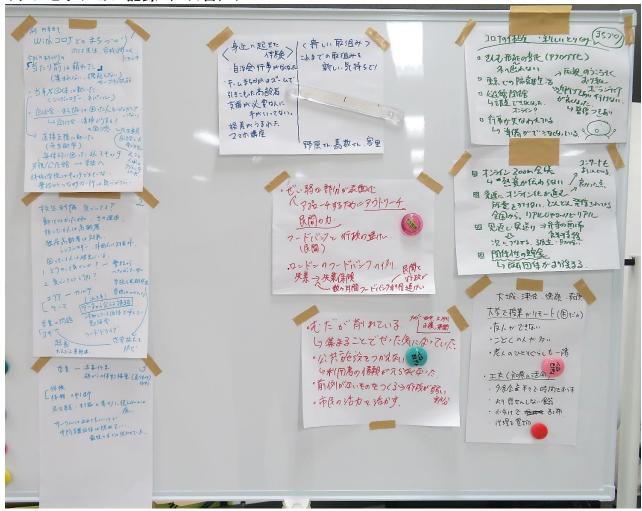


2020.10.13 📆 5

<板書記録(2日目)>



<サブセッション記録(2 日目)>



Withコロナ時代の新しいまちづくり を考える地域円卓会議

> サブセッション 記録スライド

-マ「集まれない時代に、まちつくりて何か起きたのか? 失ったものと得たもの」

(メンバー:仲根さん、松下さん、金城さん、宮地 仲根さん

- (中報さん) ・ 車いす使用の方々とお会いするのはハードルが高かった。コロナ禍では、オンラインで気楽に話すオンラインカフェを聞いた
 ・ 交流が深まった。今まで見えてこなかったことが明らかになった。
 ・ テレワークで働く可能性が見えてきて、チャンスが見えている。
 失ったもの

- 飲み会が出来ないのがつらい!

得たもの ズームの可能性は凄い。行かなくてすむ。色々な人が繋がる可能性が出ている。

テーマ「集まれない時代に、まちつくりて何か起きたのか? 失ったものと得たもの」

伝統と歴史ってなんだったのか。

- 金城さん
- 得たもの ◆ オンラインを通して全国の仲間と繋がっている
- 失ったもの チーム活動が出来ない。

得にもの オンラインで、名古屋にいてもつながれる。 空手のお稽古もできる。 今日も、石垣島、名古屋、相模原でつながれた。 失ったもの 沖縄に行っても気軽に皆にあえない。状況がわからない。

-マ「集まれない時代に、まちつくりて何か起きたのか? 失ったものと得たもの」

- (メンバー:日高房子、やの弘子さん、比嘉祐子、ひがえりか、井上さん)
 日高さん:やっていること) 笑いヨガ (全国、みんなで笑う)
 身体ほぐしなどをZoomで行っている。70代でZoomを始めた。
 矢野さん:商店街いかに観光客に頼っていたか良く分かった。
 「いかに地元の人にも来てもらうまちづくりにするか」考えないといけない。コロナは良い機会になっている。
 ・井上さん:オリオンピールの会社や高校生の取組がすごいと思った。
 ・比嘉祐子:自然体験の機会が減った。

2

16